



看護師つれづれ日記④ 寄り添って安心感を・

近年、在宅医療が勧められている中で、「訪問看護師」を利用される方が増えています。病院勤務を辞めて「訪問看護師」として働き始め、私自身、病院に居る時はわからなかった事、皆様も知っているようで知らない事が多いと感じるのが現状です。そこで、今回は「訪問看護師」の仕事についてお話ししたいと思います。

「訪問看護師」看護師の仕事内容は、病院とそれほど変わりません。入浴介助、食事介助、排泄、療養相談、点滴、治療、服薬確認、家族指導、看取り等等、仕事内容は病院の看護師と大きく変わりありません。何が大きく違うかと考えたところ、私なりに出た答えは・・・患者様（在宅では利用者様と言います）一人ひとりとの向き合い方ではないでしょうか？

所によって違いますが、私の事業所は、ほぼ担当制になっておりますので、毎回同じ看護師が訪問します。状態もよく把握でき、利用者様はもちろん、家族との関係性も強いです。信頼関係が強くなり、利用者様は安心して日常を過ごされているという、有難い言葉をいただいています。私自身も、病院の時のような時間に追われる焦りは全くありません。利用者様のお宅に行ったら、その時間は全てその方の事に集中できるので、ゆっくりケアができ、話もゆっくり聴くことができます。緊急時は当番制になっていますが、事業所内でカンファレンスをしていりますが、全ての看護師が、対応できる体制にもなっています。看取りの際は、担当が訪問いたします。最期の時間を、ご家族と一緒に過ごしています。担当として、長い間一緒にいると、看取りは辛くなることも多いですが、その方の最期の時間を一緒に過ごした看護師として、ご家族も、本人も後悔を残さないようにして欲しい・・・その想いで担当させていただいています。

慢性疾患、精神疾患、看取り、それぞれの段階で、ご家族、ご本人が一番心配なのは、「家に帰ってからどうしよう」だと思います。訪問看護師は24時間体制なので、何時でも、どんな時でも連絡が取れます。電話相談で済むこともあれば、訪問させていただく事もあります。いつでも連絡が取れる人がいる」その安心感が、在宅では必要なのではないかと考えます。それぞれの疾患、病期によって抱えているものは違いますが、皆様が求めるのは「安心感」なのではないかと思ひ、ご家族、ご本人が不安にならないように、病気を持ちながらも、在宅で、その人らしく生活できることへのお手伝いできれば、何よりです。看護師がいることで、安心する。その言葉が活力になります。

近年、コロナの影響で、入院すると面会ができなくなり、在宅医療を希望される方が増えました。在宅なので、利用者様のホームです。利用者様が主体です。生活時間に合わせて訪問させていただきます。退院してから訪問看護師、訪問診療を選択し、今では「絶対入院しない。家にいて、こんなに穏やかに過ごせるんだったら、家がいい」と話してくださる利用者様がいます。何かあれば相談できる医療者がいる。その安心感があるそうです。看護師としても、そう思ってください嬉しく思います。

治療をするのが看護ではありません。その人が、その人らしく生活を整え、生きる力、本来持っている治癒力を引き出す事が看護の力だと思います。

訪問看護師だからできること。それを日々考えながら続けています。

